



●議員はローテーション ●議員報酬は市民の活動費 ●選挙はすべて手作り

つくば・市民ネットワーク通信

発行：つくば・市民ネットワーク
発行責任者：北口ひとみ
つくば市千現1-18-5-101

2012年4月5日
vol.30

Tel&Fax:029-859-0264 tsukubahotnet@ybb.ne.jp
http://www.geocities.jp/tsukubahotnet/

”市民の力で つくばを変えよう!”

つくば・市民ネットワークは、「市民が主体のまちづくり! お任せにしない市政に変えよう!」をスローガンに8年間活動してきました。

しかし、「政治はわかりにくい、日常生活から遠いもの」という市民感覚が強く、市長や市議会議員選挙すら5割の投票に留まる現状です。これは「市政をお任せ」している状況に他なりません。

「お任せ」から卒業しよう

この度の大震災、特に福島第一原発の事故は、私たちにお任せする姿勢を改めなければならぬと、厳しく突きつけた結果となりました。

原発に依って立つ政治家や官僚、さらには専門家と呼ばれる人たちに、お任せしきつていては、未来をつくることはできません。復興に向かっては、私たち

自身が自分たちの生活をどのようにしていくのか、考えを出し合っていかなければと思います。もう他人任せではいられないのです。



**あきらめず
しくみを作ろう!**

まちづくりとは、そこで暮らす人々の願いや希望の実現であり、それには市政における制度づくりや環境整備も重要で、市民の意見・意向の反映がかかせません。

しかし、市の情報も意見や提案の届け方もよくわからない……どうせ出しても……とあきらめるケースも少なくない状況で、市政への市民参加はまだまだ課題が山積みです。そこで**市民ネットは、代理人(市議会議員)を通して更なる情報公開を進め、市民参加がしやすい環境を作ってき**

つくば・市民ネットワーク3つのルール

議員はローテーション

市民ネットの代理人(議員)は原則2期8年で交代し、職業化・特権化しません。世代交代を進め、参加の層を広げます。任期を終えた代理人は地域の活動にその経験を活かします。

議員報酬は市民の活動費

議員報酬は市民の税金です。議員経費とまちづくり活動費に使います。お金の流れは全て公開し、政治資金の透明化を図っています。

選挙はすべて手作り

選挙は政治参加の入り口です。みんなでお金(カンパ)と、知恵や労力(ボランティア)を出しあって選挙を行います。



ました。講演会・学習会や調査活動、政策提案や情報発信などに活かしています。また、様々な市民の方々と共に活動を行い、大勢の市民が参加するまちづくりを目指してきました。

このような積み重ねや人々のネットワークが市民の力となって、市政を変えていく力になると感じています。

あなたの声や参加がつくばを良くします。ぜひ一緒につくばの明日をつくりましょう!

話そう!会

議会の報告、身近な問題について話し合います。どなたでもお気軽にお越し下さい。

- 4月23日(月)10:30~12:00 市民活動センター
- 4月25日(水)10:00~12:00 並木交流センター
- 4月25日(水)14:00~16:00 荃崎交流センター
- 5月8日(火)10:00~12:00 春日交流センター
- 5月9日(水)10:00~12:00 松代交流センター

一般質問項目

1. 市政運営
2. 自治基本条例制定
3. 風車裁判と
入札制度改善
4. 防災対策
5. つくば環境スタイル
行動計画

市民参加は保障されるのか？ 自治基本条例の制定 先行き不透明に

ながい えつこ
つくば市議会議員 永井悦子の議会報告
総務常任委員会



自治基本条例とは、自治体運営全体の基本となる、理念、原則、制度を定めるものです。自治体の最高の条例とされ、個別条例を定める時は、自治基本条例と整合しなければならぬとされています。大変重要な条例で、地方自治法に書かれていない市民参加を規定することができません。



「市民ワーキング チーム案」提言

市長は、H20年の市長選挙マニフェストに自治基本条例制定を掲げました。

その後つくば市総合計画後期計画、行政改革プランにH24年の自治基本条例制定が明記され、H22年7月から、5人の公募委員を含む16名の市民ワーキングチームによる策定活動が始まりました。

38回の市民ワーキングチーム会議や15回に及ぶ市民ワークショップなどを

重ね、本年3月末「市民ワーキングチーム案」として提言されました。



制定は先延ばしに

ところが市長は、「今期の制定は困難と考える」と、条例制定を先延ばしにする発言をしました。

条例の必要性や効果の検証を理由に挙げましたが、マニフェストに掲げる前に

調べていなかったとは驚きです。

そのうえ、足掛け2年に及ぶ市民の膨大な策定作業を経て提出された市民ワーキングチーム案はどうなるのか、明確な答えはありません。

現在つくば市には、市民が十分に市政に参加する仕組みや、市政の公正さを保障する条例や制度が不足しています。

市民参加に必要な仕組みの整備を先延ばししないよう、市民ネットは今後も強く働きかけていきます。

地震による原発事故 今、ここにある危機

東海第2原発は、福島第1原発と同様の被害を受けながら、危機一髪大事故を免れた。これは本当に運がよかっただけで、余震が続くなか予断を許さない状況だ。今議会で、「東海第2原発の廃炉を求める意見書提出を求める請願」が全員一致で採択され、国へ意見書が提出されたのは、大きな前進と言える。

しかし、つくば市では今現在、原発事故への対策は無い。市町村にはテロ対策の中に放射線に関する記述があるのみ。市は、国、県の上位計画を待って秋以降の対策検討となるとのこと。しかし「今が危ない」と認識し独自対策を早急に考える必要がある。今後も対策を求め続けていく。



つくば市は東海第2原発から約60km

とりで生活者ネットワーク 代理人誕生!

1月29日に行われた取手市議会議員選挙で「とりで生活者ネットワーク」から送り出した代理人：池田めぐみ がみごと当選しました！つくば・市民ネットワークと同じくみの下「市民主権のまちづくり」をモットーに、取手でも代理人と共に活動がスタート！「まちづくり懇談会」や市議会傍聴など多くの市民へ呼びかけ、着々と活動を進めています。今後は、各自治体での活動と同時に、県単位で連携・協力しながら「暮らしの中からまちづくり」を進めていきます！



望まれるサービスの提供が課題 つくば市障害福祉計画 アンケートや議事録を活かして!

つくば市議会議員 瀬戸 裕美子 の議会報告
せと ゆみこ

一般質問項目

1. 障害福祉計画
2. 学校図書館の充実
3. つくばスタイル科の設置について
4. 放射線対策

「つくば市障害福祉計画」が策定されています。今回第三期目の計画になります。計画策定には市民や事業者、当事者を含む懇談会が携わっています。この計画が前計画の改善につながっていくことが求められています。

利用者のニーズに合った支援を!

この懇談会の他に、当事者家族や事業者に対し、アンケート調査がおこなわれ、これらからも課題が挙げられています。

たとえば機能訓練、生活訓練などは希望が多いにもかかわらず、実際の利用が少ないという現状があります。自分の障害に対応したサービスではない、利用料が高い、訓練士や療法士の技術に不安を感じているなどの理由から使えないという事です。

それらを改善して、当事者が欲しいサービスを提供できるようにする工夫を考えなければ、状況はよくな

内部被曝から子どもたちを守ろう

学校給食の食材は一般食品の場合、新基準の 100Bq/kg を超えるものは出ていないという報告です。しかし現在の測定では、限界値セシウム合計 60Bq/kg で、不検出ということは、ゼロかもしれないが 59 かもしれません。



子どもを持つ親としては、限りなくゼロに近くして欲しいと願っています。低線量被曝の影響については見解が分かれています。食べ物による内部被曝はできるだけ防がなくてはなりません。ところが、24 年度の予算には、食材の測定器ではなく、現状より性能の良い空間線量計を買うために 1410 万円が計上されました。内部被曝から子供を守るためにはもっと検出限界が低く性能の良い食材用測定器や測定方法が望まれます。

これまで求めてきた、子どもの健康調査の実施も含め、今後も引き続き、働きかけていきます。

りません。これについて質問したところ、「法律に基づく基準に則ったサービスの内容であり、かかる費用も地域加算はあるものの、全国統一のものである、指導的対応は県の役割でありつくば市としては県と相談しながら対応していく。」という回答でした。つくば市の独自の計画となっていないながら、県に従うだけの消極的な対応では福祉都市の名が泣きます。

毎回、議事録がない?

また、懇談会を傍聴した時に、委員から前回の議事録提出が求められていました。しかし、議事録は出さ



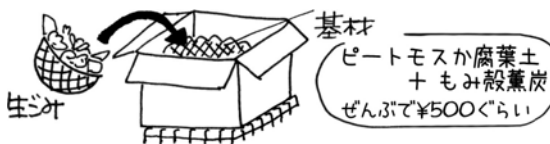
れず、委員の中でこれまで懇談会で協議された内容が再確認したり、共有することができないため検討が十分に生かされなかったのではと思われま

どの審議会でも言えることですが、**計画を作った終わりではなく、前計画を改善してより質の高い福祉を実現できるようにすることが重要**です。議事録をその都度公開し、アンケートや懇談会の議論が計画に十分生かされるよう求めました。

始めてみませんか?

ダンボールコンポスト

ダンボール箱の中に基材を敷き、それに生ごみを入れ、毎日まぜるだけで、生ごみが発酵し堆肥になるという簡易生ごみ処理器です。臭いも少なく、庭のない家庭でも取り組めてとってもお手軽です。また、ごみ袋も軽くなり、ごみ捨ての回数も減って、とっても快適! 出前講座も開催します。関心のある方は、市民ネット事務所 (電話859-0264) へご連絡を!



傍聴席から

容器包装リサイクル法（以下容リ法）改正の請願の審議を見届けるため、初めて委員会傍聴をしました。

傍聴していて感じたことは、瀬戸議員が私たち市民の立場で、予算案などについて事細かな質問、意見を述べられていたことです。市民から預かった大切な税金の使い道、市民の文化的な質の向上、みんなが安心して暮らせるまちなど、行政に頼らなければ出来ないことに多くの意見を言われていました。請願については、質問も出て活発に議論がおこなわれていました。これからも私たちの思いを届けてください。

今回の目的である容リ法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を国へ求める請願は無事採択されました。紹介議員の永井さんをはじめネット事務局、実行委員会のメンバーの力によるものです。一市民が「ごみを減らしたい」の小さな思いから市議会を動かし国の法律の改正に意見書を出すことは、社会の一員としての権利と責任を感じた傍聴となりました。（H. K）

つくば・市民ネットワークの主な活動報告

- 1/11、2/8、22、3/7、14、21
自治基本条例市民ワーキングチーム会議傍聴
- 1/18、29 自治基本条例市民ワークショップ参加
- 1/18 議会改革調査特別委員会視察（多摩市）（永井）
- 1/23、2/13、3/2 議会改革調査特別委員会（永井）
- 2/ 1、6、8、9 話そう会開催
- 2/ 2 自治基本条例三者（議会・行政・市民WT）合同ワークショップ出席
- 2/ 3 公共交通活性化協議会出席
- 2/10 環境経済委員会視察（東海第二原発）（瀬戸）
- 2/17 ダンボールコンポスト講習会（筑西市にて）講師
- 2/22～3/15 3月定例会市議会
- 2/27 県の放射線アドバイザー派遣意見交換会参加
- 3/ 7 「僕たちだって大人になる 一成人した障害児が思うことー」参加
- 3/25 市民と議員の条例づくり交流会ワークショップ
「市民と議会のつなぎ方・つながり方」参加
- 大豆畑トラスト全国交流集会参加
- 3/26 街頭議会報告

※自治基本条例を考える市民の会、放射能汚染から子どもを守ろう@つくば、脱原発ネットワーク茨城の定例会へも参加しています。

※放射線問題関連の学習会へも多数参加。また、テーマごとの部会活動の他、委員会・審議会等へも多数参加しています（詳細はHPをご覧ください）。

つくば・市民ネットワーク 会員募集中

多くの皆さんの声や参加が解決の原動力です。
あなたの参加をお待ちしています。

Tel&Fax 029-859-0264

こんな活動しています



こども部会
担当: 皆川幸枝

「自分が一体どれぐらい被曝するのか？」普段の環境、家や外（学校、会社）で、小型の放射線測定バッチを1週間身につけ、1年間の累積の外部被曝線量が推測できます。その数値により、家のまわりの除染や学校の除染の目安にできます。

こども部会では、バッチの活用方法を検討中です。アイデアお待ちしております！

交通まちづくり部会は4月14～15日デイズタウンで開催される笑顔市に出展します。

内容は「ヒヤリハットマップづくり」「自転車マナークイズ」「公共交通アンケート」。ヒヤリハットマップ作りは今年で3回目。集まった情報を行政や警察に伝え、自転車事故の多かった交差点が歩車分離信号になるなど成果も見えてきました。「ここが危ない」情報お待ちしております。



交通まちづくり部会
担当: 宇野信子



自治基本条例部会
担当: 北口ひとみ

自治基本条例のワーキングチーム（以下WT）会議をできる限り傍聴をしてきました。一昨年8月から計38回、平日夜7～9時の開催は結構厳しいと思われましたが、熱心な話し合いには頭が下がります。

市民の誠意と熱意の賜でもある「市民WT案」が広く市民の方々へお披露目されるのを心待ちにしています。

自治基本条例第2回市民フォーラム

5月13日(日) 13:30～16:30

筑波学院大学 資料代:500円

基調講演・市民案発表・意見交換

講師: 福嶋浩彦氏（消費者庁長官 元我孫子市長）

主催: 自治基本条例を考える市民の会
共催: 市民自治・自主講座